Otsuka Track & Field Team
since　1990

2008 年度

３年ぶり関西王者へ返り咲き

関西実業団駅伝（和歌山県：龍神村 80.45km）
4 時間 00 分 10 秒

駅伝　関西実業団

大塚製薬３年ぶりＶ

日亜化学 過去最高９位

駅伝の第33回全日本実業団対抗大会（ニューイヤー駅伝＝2009年1月1日・群馬県前橋市）の予選を兼ねた第51回関西実業団対抗大会は16日、16チーム（うちオープン参加4）が参加して和歌山県田辺市龍神村コース（7区間80・45㌔）で行われ、徳島県の大塚製薬が4時間0分10秒で3年ぶり8度目の優勝を果たした。

大塚製薬は3区でトップに立ち、2位佐川急便を55秒抑えてゴールした。3区松岡佑起とアンカーの7区竜田美幸が区間賞を獲得した。このほか、日亜化学は4時間28分35秒で同チーム過去最高の9位。オープン参加した三好ランニングクラブ（RC）は15位相当の4時間44分41秒だった。

全日本実業団対抗大会には上位5チームが出場する。

総合成績

①大塚製薬	（徳島）	4時間0分10秒
②佐川急便	（京都）	4時間1分5秒
③山陽特殊製鋼	（兵庫）	4時間2分13秒
④四国電力	（香川）	4時間2分18秒
⑤ＮＴＴ西日本	（大阪）	4時間2分33秒
⑥大阪ガス	（大阪）	4時間2分55秒
⑦大阪府警	（大阪）	4時間8分48秒
⑧住友電工	（兵庫）	4時間10分54秒
⑨日亜化学	（徳島）	4時間28分35秒
三好ＲＣ	（徳島）	4時間44分41秒

※上位と徳島県関係。三好RCはオープン参加のため順位なし

トップでゴールに飛び込む大塚製薬のアンカー竜田＝和歌山県田辺市龍神村

【評】3区でトップに立った大塚製薬がその後独走態勢を築いた。1区井川は序盤から先頭争い。佐川急便に7秒差の2位につけると、2区松浦も粘って5秒差で3区へ。続く松岡佑が区間1位の快走で首位に立ち、19秒のリードを奪った。

4－6区の尾池、北川、片岡は安定したペースでレースを運び、徐々にリードを広げ54秒差。最後はアンカー7区の竜田が区間賞で締めた。

日亜化学はチームでただ一人、区間一けた順位で走った3区森が通算順位で9位に浮上。この後10位に後退したが、7区山平が9位に戻した。三好RCもオープン参加ながら懸命のたすきリレーをみせた。

〈区間1位・徳島関係〉（大塚製薬と日亜化学の記録中、白抜き数字はオープン参加チームを除いた通算順位）

▽1区（12・6㌔）①仙頭慎典（佐川急便）37分58秒②井川重史（大塚製薬）38分3秒⑩吉田雅俊（日亜化学）42分33秒⑭片岡弘之（三好RC）43分30秒

▽2区（7・68㌔）①久保慶和（四国電力）23分24秒③松浦貴之（大塚製薬）23分30秒⑩田中芳久（日亜化学）26分18秒⑬木下産一（三好RC）26分49秒

▽3区（10・87㌔）①松岡佑起（大塚製薬）30分36秒⑨奥泰英（日亜化学）33分33秒⑭松本泰中（三好RC）37分48秒

▽4区（9・5㌔）①山田泰仁（NTT西日本）27分30秒②尾敬利（大塚製薬）27分31秒⑮竹内政文（日亜化学）31分45秒⑭近藤仁樹（三好RC）33分49秒

▽5区（16㌔）①森田司（山陽特殊製鋼）48分16秒②北川敬大（大塚製薬）48分56秒⑩石川佳彦（日亜化学）54分25秒⑭井下昌彦（三好RC）55分58秒

▽6区（11㌔）①竹中友人（NTT西日本）33分26秒②片岡拓介（大塚製薬）33分26秒⑤和田圭平（四国電力、徳島高田）33分50秒⑩武谷典（日亜化学）37分29秒⑯和気興治（三好RC）41分51秒

▽7区（12・8㌔）①竜田美幸（大塚製薬）37分50秒④坂東和幸（四国電力、美馬商高－カネボウ）38分6秒⑬山平和也（日亜化学）42分35秒⑯森正博（三好RC）45分43秒

チームの高さ見せつける

大塚製薬

両手を大きく広げて、アンカー竜田がゴールに飛び込むと、スカイブルーのユニホームが3年ぶりに歓喜に包まれた。主力のベテラン3人を欠き、歳の井川と22歳の松浦、松岡佑の若手3人がレースの流れを引き寄せた。1区を任された井川は「トップでつなぎたかった」と悔しがったが、区間2位の力走。2区は今春入社したばかりの松浦が務めた。「流れを壊さないことだけを考えた」と、堅実な走りでつないだ。

3区の松岡佑は冷静な試合運びでトップを奪取した。24日の国際千葉駅伝の日本代表に選ばれている期待のランナーは「最初にペースをつかむのが大事。あとはスピードに乗れた」と、1㌔すぎに佐川急便の山本をとらえ、区間賞の快走でリードを築いた。

過去2大会苦しんだ序盤を若手の頑張りで乗り切ると、中盤以降はベテラン、中堅勢が支えた。激しい雨の中、尾池、北川は自分のペースを終始守り、リードを拡大。片岡も粘り強い走りでさらにタイム差を広げた。

若手の台頭がチーム内競争に火をつけている。7区で区間賞を獲得した竜田でも「全日本実業団でもメンバーに選ばれるよう頑張りたい」と危機感を募らせる。創部20年目の節目の年明けとなる来年元日の全日本実業団駅伝（ニューイヤー駅伝）では、3位内の大きな目標を掲げている大塚製薬。大会までの1カ月余りでまた一段と強さを増しそうだ。（城福）

徳島新聞 11/17